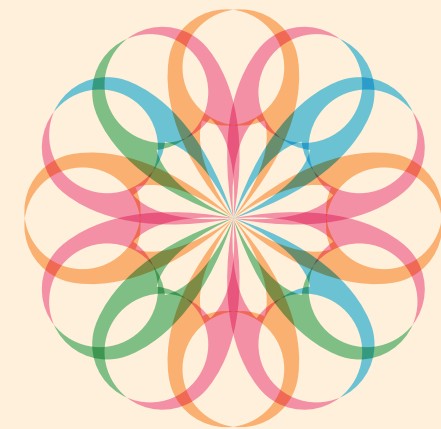




未来を拓く  
新たな挑戦!

きれいに、輝き  
かしこく、かせぎ  
大輪の花になる。



やまぐち  
農林漁業ステキ女子

やまぐち  
農林漁業ステキ女子  
YAMAGUCHI WOMAN POWER! VOL.3

発行:2023年3月  
発行元:山口県農林水産部 農林水産政策課 農山漁村女性活躍推進班  
〒753-8501 山口県山口市滝町1番1号  
TEL:083-933-3370  
FAX:083-933-3339

やまぐち農林漁業ステキ女子  
ホームページにて  
活動や最新情報を発信中!



# 未来を拓く

## 新たな挑戦！

県域女子会や地域女子会の活動に参加しながら自らの働き方を見つめ直しさまざまな角度から経営改善に取り組んでいるステキ女子たち。明るい未来へ向かって挑戦し続ける彼女たちの輝く姿をご紹介します。

### やまぐち 農林漁業ステキ女子とは

山口県内には、自身のズテキ・スタイルを持ち、農林漁業を職業として活躍している女性の仲間がたくさんいます。やまぐち農林漁業ステキ女子は、「きれい」「輝き」ながら、「かしこく」「かせぐ」ステキ女子を目指して、経営発展につながるさまざまな取り組みを展開しながら、農林漁業の魅力を発信していきます。

もくじ

ステキ女子たちの未来を拓く新たな挑戦！  
やまぐち農林漁業ステキ女子とは……………01

#### 【働き方改革】

- 才木 祥子さん……………02
- 長尾 智美さん……………04
- 火室 恵さん……………06
- 田熊 享子さん……………08
- **【女性が働きやすい職場づくり】**
- 久保 伶名さん（農川西）……………10

#### 【加工品開発】

- 小早川 さえ子さん……………12
- コラボ活動の取り組み……………14
- やまぐち農林漁業ステキ女子の取り組み……………16
- 登録メンバー＆応援団を大募集！……………18
- 山口県での就業の流れ……………20

challenge

## 1 働き方改革



宇部市・才木 祥子さん

次世代へつなげる農業を目指して。



岩国市・火室 恵さん

加工場の改善で仕事がスムーズに。



田布施町・田熊 享子さん

雇用で気持ちがかたくなった。



山口市・長尾 智美さん

次なるリーダーの育成に向けて。

challenge

## 2 女性が働きやすい職場づくり



山口市(農)川西 久保 伶名さん

就業環境を整え若い人材に未来を託す。



山陽小野田市・小早川 さえ子さん

おいしいのにもったけない。規格外品を価値ある商品に。



challenge

## 3 加工品開発

SNSもあります

Facebookにて

やまぐち農林漁業ステキ女子の活動や最新情報を発信中！





まず実行したのが倉庫の大掃除。プロの力も借りて整理整頓したことで、日々の作業時間が短縮できるように。

空間に余裕ができると気持ちにも余裕が

時間を生み出すには人に仕事を任せることが大事!



次代を見据えながら、食べることが楽しくなる、おいしい野菜づくりに取り組む才木さん夫妻。



マニュアルはメモ程度でOKと佐川先生に言われ、気持ちが楽になったそう。仕事の指示は常にメモマニュアルで。

▶ 左から、夫の才木誠さん、才木祥子さん、佐川友彦さん

未来を拓く  
新たな挑戦  
**働き方改革**



**次代へつながる農業を目指して。**

宇部市・才木 祥子さん



さい き しょう こ  
**才木 祥子さん**



まこっこ農園  
山口県宇部市小野651  
<https://www.facebook.com/Macocconouen>

就 業 年：2009年  
経営品目：ミニトマト、白ネギ、スナップエンドウ、キャベツ  
栽培面積：1.2ha(うちハウス6棟)

1982年、山口県宇部市出身。大学在学中にアルバイトしていた農家レストランで畑仕事を手伝った際に土の温かさに感動し、命を育てる農業の仕事に興味を持つ。大学卒業後は就農の夢を胸に農文協へ就職。職場の同期で、同じく農業を志していた埼玉県出身の夫と出会い、2009年に宇部市小野で新規就農を果たす。3児の母。

暗いトンネルで見つけた灯り。

「食べることを楽しく」をモットーに、夫婦力を合わせて、食べることが楽しくなる野菜づくりに専念してきました。おかげさまで販売は順調で、そのぶん生産量もパートさんの雇用も増えていきます。ところが今度は管理的な仕事が多くなり、どんどん自分の時間がなくなる事態に。行き詰まっていた時に夫が薦めてくれたのが、佐川友彦さんの著書『東大卒、農家の右腕になる。』でした。出口のない暗いトンネルで灯りのスイッチを見つけた！ そんな感覚でした。

**著者とまさかの出会い。**

そしてその翌年に、著者の指導が受けられるとは、夢にも思いませんでした。農家の経営改善ノウハウが詰まったこの本を、ステキ女子と知事との意見交換会で紹介したのがきっかけとなり、佐川先生のアドバイスをいただきながら経営改善に取り組めることになったんです。「時間がない」という最大の課題を克服するために、一つひとつの仕事を検討しては改善アイデアを出し、実行することを半年間繰り返しました。

**大切なのは小さな改善の積み重ね。**

整理整頓の習慣をつけるために整理収納アドバイザーを交えて大掃除をしたり、メモマニュアルを渡してパートさんに仕事を任せたり、煩雑化してきた会計管理を外部に委託することになったり、それだけでも休憩が30分長く取れるようになりました。できることから一つずつ改善を重ねた結果、自分の時間を生み出せたんです。新規就農して、ゼロから手探りで経営してきて、やっと自分のやりたい農業に近づけた、そんな実感が私に自信をつけてくれました。

**できた時間を地域へ還元。**

昨春は、小野小学校の児童数を増やす活動グループ「おのっこ未来応援隊」を立ち上げました。時間ができたら違うことを始めて、また忙しくなるんですけど(笑)、ストレスはないし、日々充実しています。人がいて人の営みがあってこそ、農業も地域も続いていくのかなど。ここで農業ができるのは地域のおかげです。今後も経営改善と地域活動を続けながら、次代へつなげられる農業を実現したいと思っています。

# 次なるリーダーの育成に向けて。

山口市・長尾智美さん



加工はマニュアルを確認しながら。「特にピクルスは旬の野菜を使うため種類が多く、マニュアルは必須です」と長尾さん。



県産野菜の旬のおいしさを閉じ込めた「山口きらピクルス」は、見た目にもかわいくカラフルで幅広い世代に人気。

スケジュール管理アプリを活用すると便利♪



一日の仕事の記録も「言語の可視化」の一つ。「業務管理に役立つし、記録を始めてから時間の使い方がうまくなったと思います」



阿知須特産の「寒漬」の原材料となる大根の塩漬けを天日干しする光景は圧巻。未来へ残したい阿知須の冬の風物詩。



一昨年にリニューアルした「寒漬」は贈答でも大好評！

▶ 左から、長尾智美さん  
社員の岡村彩加さん  
夫の長尾誠太さん



ながおともみ  
**長尾 智美さん**

株式会社あぐりてらす阿知須  
山口県山口市阿知須1517-1

就 業 年：2011年  
経営品目：水稲、野菜、加工品（寒漬、かきもち、ピクルス）  
栽培面積：水稲約45ha、その他農地15ha

1976年、新潟県出身。職場の美容室に客としてやってきた夫と意気投合し、半年後に結婚。新聞記者だった夫の転勤を機に新潟市を離れ、東京に3年、北海道に2年暮らした後、自身の病をきっかけに夫の実家へリターン。翌2011年に就農して、夫婦で農業を引き継いだ。2021年に法人化し、社員を増やしながら事業規模を拡大中。夫、娘と3人暮らし。

農地が広がり雇用を開始。

両親から農業を引き継ぎ、夫は水稲、私は阿知須特産かぼちゃ「くりまき」と加工部門を担当して、はじめは夫婦二人でやってきたんですが、夫がどんどん農地を広げるので手が足りなくなり、数年前から人を雇うようになりました。この辺りも年々休耕地が増えていて、放っておけないですよ。裏作野菜の生産で収益を安定させ、法人化もして、雇用環境を整えました。現在、十余名の従業員が一緒にがんばっています。

任せるためには「可視化」が大事。

製造から販売まですべてを一人でこなしてきた加工部門も、2年前に入社した女性のおかげでずいぶん楽になりました。製造はある程度彼女に任せられるし、繁忙期には他の社員にも手伝ってもらっています。ただし、人が増えると、口頭だけで物事を伝えるのは限界があつて。どうしてもミスやトラブルが起きてしまうんですよ。そんな時に、ステキ女子の研修会で「言語の可視化」の大事さを学ぶことができて、本当に助かりました。

マニュアルで作業効率も向上。

さっそく加工品のマニュアル作成に取りかかり、講師のアドバイスを参考に、まずは絶対に間違えちゃいけない分量や時間、安全チェックなど、大事なところだけを可視化。パッと見てわかるよう表現を工夫して、ラミネート加工し、加工場でいつでも取り出して使えるようにしました。マニュアルを整備してからミスが減り、作業効率もぐんと良くなりましたね。単純な作業だからこそ、マニュアルが必要なんだと実感しました。

リーダーの人材を育てたい。

また、昨年は思い切って朝礼を変えてみました。それまでは夫が指示を出すだけの10分間でしたが、朝礼はみんなが集まれる唯一の時間なので、前日の作業報告とその日の予定を一人ずつ発表してもらおうようにしました。すると、みんなの自覚が変わりましたね。主体性が備わったと思います。今後さらに農地が増える予定なので、この調子でリーダーになれる人材を育て、社員を増員して、彼らに現場を任せたいですね。

作業台の高さが上がったので腰をかがめずに作業できるようになり、腰痛が改善したそう。

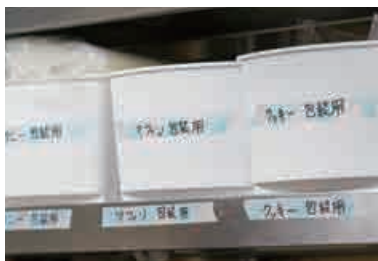


すぐに見つけられるし、  
ペロと貼れる！



以前は箱に入れていた商品ラベルを  
トイレットペーパー式に吊り下げた  
だけで作業時間が短縮。

マステは  
貼り直しができて便利♪



包装資材は商品ごとに使うものを分けて引  
き出しに入れ、マスキングテープで表示。



小さい子にも安心して  
食べさせられる、  
米粉の焼き菓子を  
製造。シフォンケー  
キはしっとりふわ  
ふわ食感。

未来を拓く  
新たな挑戦

## 働き方 改革

## 加工場の改善で 仕事がスムーズに。

岩国市・火室 恵さん



### 結婚を機に加工をスタート。

私が加工に携るようになったのは、ここに嫁いでしばらくしてからです。夫の母は父が育てた自家栽培米を使って、自宅併設の加工場でいるるな加工品を製造していたんですが、高齢になったので、そろそろやめようと考えていたみたいなんです。ある日「興味があればやってみない？」と声をかけられ、米粉のシフォンケーキを習ったのが始まりです。もともとお菓子づくりは好きだったので、そのまま母のレシピを引き継ぎました。

### やっと気づいた加工場の課題。

子育てしながらコツコツ加工を続け、季節の野菜を使ったマフィンや型抜きクッキーなど、新しい商品も少しずつ増やしてきました。ただ、加工場は母が使っていた当時のまま、何も変えてこなかったんです。しよっちゅう棚で頭を打つし、加工の日は腰が痛くなるし、何となく使いにくいなーとは思っていました。が、どうしていいかわからなくて。そんな時に岩国地域のステキ女子会に参加して、整理収納アドバイザーさんに出会ったんです。

### 整理収納で作業効率が向上。

思い切って指導をお願いし、いざ整理を始めてみると、使わないものや要らないものがたくさん出てきてびっくり(笑)。必要なものだけを残して、作業の導線や取り出しやすさを考えながら収納位置や収納の仕方をガラッと変えました。小柄な母に合わせたレイアウトも変更し、長身な私の使い勝手を考えて吊り棚を付け替えたり、作業台を高くしたりして、格段に作業がやりやすくなりました。

### 製造環境が整い、次のステップへ。

こんなものかなーとやり過ぎてきた加工場の使いにくさを、こうして改めて見直して、本当に良かったです。材料や資材の在庫が一目でわかるし、すぐに取り出せるし、身体の負担も減って、うれしいことだらけです。作業効率が上がって時間短縮できたぶん、保育園のお迎えに早く行けるようにもなりました。製造環境は整ったので、子どもがもう少し大きくなったら、今度はしっかり販路を広げていきたいです。

ひむろ めくみ  
火室 恵さん



山の菓子工房  
山口県岩国市美和町秋掛163-4  
<https://www.instagram.com/yamanokashi/?hl=ja>  
就業年：2014年  
経営品目：米粉の焼き菓子

1989年、山口県岩国市出身。市中心部で生まれ育ち、県立高森高校を卒業後、パソコンへの興味から広島市立大学情報科学部へ進学。期待と現実とのギャップや通学疲れがももて退学し、仮設資材レンタル会社に就職して事務職を経験。社内結婚後、美和町へ移り住み、米粉を使った焼き菓子の製造を義母から引き継いだ。3児の母。



未来を拓く  
新たな挑戦

# 働き方 改革

## 雇用で気持ち became 楽になった。

田布施町・田熊 享子さん



収穫繁忙期は7、8月。  
暑い中の作業は  
体力勝負!

きつい農作業に人が定着するの  
か最初は不安だったそう。「結構  
楽しいと言ってもらえてホッとし  
ています」



アスパラ自動選別機を導入したおかげで  
作業効率がアップ。



雇用に踏み切ったことでゆとりが生まれ、  
研修会などにも参加できるように。  
「一人だと周りが見えなくなるし、外に  
出ることは大事」と田熊さん。



田布施地域交流館や  
イオン光店などで  
購入できます♪

有機肥料・減農薬栽培で大事に育てた  
アスパラガスはJAへ出荷。一部地元の  
直売所などでも販売している。

### 就農のきっかけはふとした出来事。

ここは兼業農家だった祖父の田んぼなんです。高校生の時に家族でこの地に戻ってきて、社会に出てからは長く家を離れていたもので、農業経験は全くなかったんです。そんな私が就農の道を選んだのは、ふとしたことがきっかけでした。体調を崩した母に頼まれて、家の畑で初めて農作業をしたら、とても気持ち良く、それが強く印象に残っていて、ある日たまたま就農支援塾の広告を目にした瞬間、その時の記憶がよみがえったんです。

### 人手不足が課題に。

給付金を受けながら農業大学校で農業の基礎を学び、柳井のあいさいの里でアスパラガスの栽培技術を身に付けさせていただきました。運良く家のそばにハウスを構えることができ、張り切って栽培を始めたんですが、それはもう大変でした。生産目標は達成できたものの、日々の収穫に出荷調整作業。追肥や防除、整枝も全部一人で行うので、とにかく身体がきつくて、それでも人を雇う勇気はなく、ずっと一人で抱え込んでいました。

### パートさんに救われた。

ところが3年前のこと、農業体験にいられた女性がそのまま農繁期の収穫を手伝ってくれたことになったんです。本当に助かりましたし、ありがたかった。雇用の必要性を痛感しました。昨春はさらにご縁に恵まれ、もう一人収穫のパートさんが増えました。経営的にどうかはまだわかりませんが、余裕ができた分、違う動きができるようになりましたし、何より精神的に救われています。

### 雇用の安定を目指して。

それに、収穫の人手が増えたことで、収量だけでなく品質も向上して、秀品の割合が多くなりました。今のところは収穫だけ手伝いに来てもらっていますが、今後は出荷調整までパートさんの仕事の幅を広げられたらいいなと思います。そのためには、今以上にしっかり収益を出していかないと。さらに売り先を開拓して、いずれは冬の作物や加工も考えたいですね。

たぐま あきこ  
田熊 享子さん

あぐり a.  
山口県熊毛郡田布施町大字宿井1754-9

就業年：2015年  
経営品目：アスパラガス  
栽培面積：15a(うちハウス7棟)

1971年、山口県熊毛郡田布施町出身。徳山女子短期大学を卒業後、地元でカーディーラーの事務職に就き、結婚を機に県外へ。1998年にリターンして広告営業などを経験し、2012年に農業大学校の「やまくち就農支援塾」を受講。農業法人での2年間の研修を経て、2015年4月に新規就農。7棟のハウスで年間約5tのアスパラガスを生産している。

